



夢や目標を実現する力を育てる北中学校
生徒数 男子 324名 女子 256名 計 580名 (8月1日現在)

令和7年8月29日発行 8月号

徳の積み立て投資

校長 三浦 伸之

8月25日からサマースクールが始まりました。約一か月ぶりに生徒たちが学校に戻ってきました。サマースクールは夏休みから2学期へスムーズに移行できるようにする準備期間でもあります。生徒たちには夏休みの生活から学校生活へと切り替えられるように、心と体のスイッチをひとつひとつオンにして2学期を迎えて欲しいと思います。

夏休み期間中は校外で生徒たちと出会う機会が多くありました。例えば北中校区内の町会の納涼大会です。ご案内をいただいた町会の納涼大会に参加させていただきました。

夕方の薄暗い中では北中の体操着や部活動のTシャツ等を着ていれば北中の生徒とわかるのですが、普段着の生徒はひと目見ただけではわかりません。しかし、ここからが北中のいいところ。「校長先生、こんにちは」と手を振ったり、声をかけてくれたりして気づかせてくれるのです。また、テントの中にいる私に気づいて、その場に居合わせた仲間とテントの前まで来て皆でいさつをしてくれたこともあります。

コンビニで会った生徒も東浦和駅で会った生徒も同じように挨拶など声をかけてくれました。さらに、私が乗っている車の色は黄色なので分かりやすいとは思いますが、車で生徒とすれ違う際に、車の中にいる私に対して会釈や挨拶をしてくれる生徒もいます。

そのまま気づかなかったことにできるような場面でも気軽に声をかけてくれる生徒たちに心が癒されます。

このような生徒たちの姿を見て、あるテレビドラマの一場面が思い出されました。

少し余談になりますが、昭和生まれの私は、家に帰ったらまずテレビをつけるというルーティーンをもつ正真正銘のテレビっ子世代です。特に季節ごとに放送されるドラマは楽しみのひとつでもあります。各局で放送されるドラマをすべて観ることはできないので、自分好みのドラマを選んで観ています。現在は3本のドラマにはまっています。

そのドラマのひとつに、ある高校の競技かるた部をストーリーにしたドラマがあります。そのドラマの中でとても印象に残るセリフがありました。かるた部の部員が脱いだ靴を顧問の先生がきれいに揃えて並べている姿を主人公の生徒が見ていました。その時、顧問の先生が言ったセリフです。

「こういう小さな積み重ねがいつか大きくなつて自分に返ってくるという『徳の積み立て投資』と申しましょうか、母からの教えなのです」というセリフです。

生徒たちが私に見せてくれたひとつひとつの行いや言葉は、このドラマの顧問の先生が言っていた「徳の積み立て投資」なのではないかと感じました。普段の何気ないよい行いや言葉は、いつか大きくなつて生徒たちに返ってくれることを切に願っています。

いよいよ2学期がスタートします。保護者の皆様、地域の皆様、2学期もどうぞよろしくお願ひいたします。

